

瀬戸内に浮かぶハートの島



いわいしま 祝島 観光ガイドマップ

山口県・上関町祝島



制作:祝島ネット21

(2025年8月発行)

祝島への交通アクセス

○定期船「いわい」(お問合せ:上関航運 0820-62-0102)

<所要時間・料金>

祝島 - 柳井港(約70分) 大人 1610円 小人 810円

祝島 - 室津(約40分) 大人 930円 小人 470円

※電車をご利用の場合は JR 柳井港駅より定期船乗り場まで徒歩3分

お車をご利用の場合は 室津(無料駐車場あり)からの乗船が便利です



<時刻表>

祝島行			室津・柳井港行		
柳井港	—	9:30 15:45	祝島	6:45 12:30 17:05	
室津	6:10 10:00 16:15		上関	7:20 13:05 17:40	
上関	↓ 10:05 16:20		室津	7:25 13:10 17:45	
祝島	6:38 10:40 16:55		柳井港	7:55 13:40	—



祝島集落マップ

○万葉の碑

祝島は、古来行き交う船の航行安全を守る神靈の鎮まり給う島として、崇められてきた「神の島」であることは、都にも広く知られ、万葉集にも登場します。



家人は 帰り早来と祝島
斎ひ待つらむ 旅行くわれを
草枕 旅行く人を祝島
幾代経るまで 斎ひ来にけむ
万葉の碑には、遣新羅使が詠んだと言われる、この二首が刻まれています。

○石積みの練塀(ねりへい)

石と土を積み重ね、しついて固めた祝島独特の塀は「練塀」と呼ばれ、江戸時代の後期より作られ始めたと言われています。



夏は涼しく、冬はあったかい・家と一体化したようなこの練塀は、吹きさらす強い海風や台風などから一軒の家だけでなく集落そのものを守ってくれます。また、防火の役割も果たされ、補修されながら今もその街並は守られ、受け継がれています。



祝島の特産品

○山の幸

びわ、みかん、びわ茶
さつまいも、こっこー
寒干し大根



○海の幸

タコの干物、ゆでだこ、サヨリの一夜干し
タイ、ハマチ、アジ、ひじき、わかめ



○郷土料理

かんぴょう汁、かすどろ
よもぎまんじゅう
石豆腐、あおさ汁

各 Web サイトへは
QR コードで
アクセスできます♪

祝島の情報

○宿泊施設

民宿くにひろ 090-1332-4897
民泊おかべ 0820-66-2201
みさき旅館 0820-66-2001
民泊ことぶき亭 080-5620-1506

○食堂・喫茶

お食事処 古泉 090-6906-3644
喫茶軽食 わた家 090-7544-8169
岩田珈琲店 090-1384-5299

○観光案内

祝島観光案内所
090-1332-4897(國弘)

○遊漁

漁協 0820-66-2121

○チャーター船

岩本 0820-66-2040
清水 0820-66-2688

○Webサイト

祝島ホームページ
<https://iwaishima.jp/>

祝島観光案内所
<https://iwaishima.jp/kanko/>

祝島通販ショップ
<https://iwaishima.jp/shop/>

民宿くにひろ
<https://iwaishima.jp/minsyuku/>



◎祝島(いわいしま)

瀬戸内海の西の端、山口県の南東に位置する祝島は、周囲およそ12km、ハートの形をした小さな島です。集落は島の一ヶ所に固まつていて約160世帯、260人程が暮らしています。一年を通して温暖な気候で、山の段々畑では特産のビワやミカンが栽培されています。周囲は豊穣の海に囲まれ、タイの一本釣りは特に有名です。島独特の景観を形成している「石積みの練塀」や「平さんの棚田」、人なつっこい島ネコが観光客に人気です。

◎不老長寿の実 こっこー(獮猴)

その昔、秦の始皇帝から不老不死の妙薬を探す命を受け、この不老長寿の実を探しに来たと言われる「徐福伝説」。

島に自生する「こっこー(シマサルナシ)」の実は親指ほどの大きさながら1粒食べると千年長生きすると言い伝えられてきました。キウイフルーツの原種と言われ、12月頃が食べ頃です。



小祝島

209m



三浦湾では瀬戸内海に沈む夕日を眺めることができます

◎クサフグの産卵地

初夏の風物詩ともいわれるクサフグの産卵。潮の満ち引きを本能的に知るクサフグの神秘的な生命の営みを、ここ祝島の三浦湾近くの波打ち際で観察できます。(6月)



◎神舞神事

今からおよそ1140年昔、仁和2年(西暦886年)8月、山城国(現在の京都)の石清水八幡宮よりご分霊を奉持して帰途の豊後(現在の大分)伊美郷の神官たちが嵐に遭った際、祝島の人たちが助け、手厚くもてなしたそうです。そのお礼に五穀の種を分け与えられ、農耕と神を祀ることを伝えられました。それによって島の生活が向上したことに感謝して、毎年8月、祝島から伊美へ「お種戻し」の参拝が行われています。



◎平さんの棚田

大正時代の終わり頃から約30年かけて、親子三代で、重機も使わず「てこ」で造りあげた日本最大級の美しい棚田。急勾配の土地を切り拓いて、広く平らな田んぼを造るため、高い石垣が築かれました。「谷積み」という手法で積み上げられた石垣は、数トンもある巨石から小石まで理想的な配列がなされています。石垣の最も高いところは9mもあり、そこからの眺めは絶景です。集落からは約4km、歩いて1時間ほどかかりますが、一見の価値があります。(2016年から休耕中です。)

祝島観光マップ

祝島では
タイの一本釣りが
有名です

祝島



◎山桜

その昔、春には、二百種類にもおよぶ山桜が、次々と咲き乱れ、島全体が桜色に染まる様は「海上吉野の千本桜」と呼ばれ、各地から御座船を立て花見に訪れていたそう



です。近海では、この時期、子育てをするクジラが集まり潮を吹く様と、島を覆い尽くすほどの山桜が織りなす風景がそれはそれは見事だったそうです。

優しい桜色が順々に咲き誇る山桜は、今もなお、私たちの目を楽しませてくれます。



集落からは美しい朝日が拝めます

◎シーグラスの浜

祝島は潮流の速い海域にあります。石などとぶつかりあって、角が取れ、まるくなつたガラスのかけらを「シーグラス」といいます。東の浜では、シーグラスをたくさん見つけることができます。波うち際でキラキラひかるシーグラスは、まるで宝石のよう、きれいです。



◎行者堂

山頂近くに、小さな鳥居と小さなお堂があり、修験僧・役行者(えんのぎょうじや)の石像が祀られています。靈験あらたかなこの行者堂を、祝島の人たちは「行者様」と呼び、「ここぞ」という時、お参りします。集落から歩いて1時間ほどで、ずっと登り坂と山道です。

